

マラウイ・エヌクウェニ通信その2 2018年4月1日

Muli uli? (ムリ、ウーリ?) 英語で How are you?, 日本語で「お元気ですか?」を意味するマラウイ北部の現地語「トゥンプカ語」の挨拶です。マラウイに派遣されてから7か月目。今回は、首都リロングウェ、任地のエヌクウェニ、その移動方法についてお知らせします。

マラウイの首都リロングウェ

「アフリカ」、「マラウイ」と聞いてどんなことを想像しますか?皆さんの想像を良い意味で裏切ってくれるのが、マラウイの首都リロングウェだと思います。

リロングウェは、マラウイの中心部に位置しています。国際空港、在マラウイ日本国大使館、ホテル、レストラン、大型スーパー、ショッピングモール、銀行、教会、ガソリンスタンド、病院、大学等があります。道路も整備されていて、ビッグバス、ミニバス、タクシー、トラックの他にも自家用車がたくさん見られます。首都でも、電気の停電、水道の断水はありますが、例えるなら日本の県庁所在地と同じくらい栄えていると思います。人口は、約78万人(2012年)です。

青年海外協力隊がマラウイに派遣され、最初の約1か月程度滞在するのがリロングウェにあるJICAマラウイ・ボランティア連絡所です。通称ドミトリーと呼ばれています。その間、JICAマラウイ事務所にて企画調査員や専門員等のJICAスタッフから、マラウイについてオリエンテーションを受講したり、自分の任地で使用する「チェワ語」、または「トゥンプカ語」の10日間の語学訓練を受講します。

初めのうちは、勝手がわからず戸惑うこともありました、生活に不便さを感じることはありませんでした。

任地のエヌクウェニ

エヌクウェニは、首都のリロングウェから北へ約450km離れています。M1という国道沿いにあり、12の地域から成り立ち、人口約16,000人が住んでいます。田舎の村といった印象だと思います。

中心地では、国道沿い約500mの間に国道を挟んで商店が立ち並び、食材や日常生活用品のほとんどを購入できます。大工、床屋、テーラー、小さな飲食店、野菜や魚の露店販売、バイクタクシーもあります。毎週火曜日は、大きな広場でサラウーラという青空市場があります。野菜、魚、炭、チテンジ(伝統的なマラウイの布2m×1m)、生活用品等、何でも売っています。

国道以外の道路は、舗装されていないオフロードです。生活に必要な道路のため、人や車以外にも、牛車、ヤギ、ブタ、鶏も通ります。

電気は不安定で時々停電があります。水道管トラブルで水が出ないこともあり、学校や公共の井戸までポリタンクやバケツを持って水汲みが必要です。そのため、各家庭では大きなバケツに水を汲み置きしておきます。水道無しでの生活も、工夫次第で十分に生活できます。

私は、このエヌクウェニで公衆衛生活動をしていきます。

任地と首都の移動方法

任地と首都の移動方法は、公共交通機関を利用した場合、1~2日間かかります。予約制の大型バスは1日2便運航していますが、18:00以降夜間の移動になる場合は、日本と違い道路の整備状況や防犯の意味からも危険なのでJICAの規則で禁止されています。そのため中継地で1泊するようになります。



総移動距離約 450km です。〈任地エヌクウェニ⇄北部中心地ムズズ⇄首都リロングウェ〉

・任地から首都まで

1 日目：エヌクウェニからムズズまで ミニバスまたはシェアタクシーで約 1 時間

2 日目：ムズズからリロングウェまで 大型バスで約 6 時間（予約制）

・ 7 : 00 発～13 : 00 着（利用可、乗り遅れないためにも要前泊）

・ 14 : 00 発～20 : 00 着（夜間移動時間に入るため利用不可）

・首都から任地まで

1 日目：リロングウェからムズズまで 大型バスで約 6 時間（予約制）

・ 7 : 00 発～13 : 00 着（利用可、

到着後ミニバス、またはシェアタクシーでエヌクウェニまで

1 日移動可）

・ 12 : 00 発～18 : 00 着（利用可、到着後要宿泊）

2 日目：ムズズからエヌクウェニまで ミニバスまたはシェアタクシーで約 1 時間



ミニバスやシェアタクシーに時刻表は無く、乗客が集まった時点で出発するので、移動時間が読めないのが難点です。なかなか出発しないため、約 40km の移動に通常約 1 時間のところ、3 時間かかったときもありました。時間に余裕を持って移動する必要があります。



客待ちをしているムズズ行きのミニバス

国道の写真を見ると景色もきれいで、清々しい気持ちで運転できそうです。しかし、国道は、山も谷も通りますが、直線にもカーブにもガードレールがありません。歩道也没有せん。道路の端は、アスファルトが崩れている箇所もあります。時々、牛やヤギが道路を横切ります。照明灯もないため、夜は真っ暗です。地方になると、このような状況が永遠に続きます。日本と比べてしまうと交通事故のリスクは高いと思いますが、マラウイにとっては重要な幹線道路です。

※参考・引用資料 <https://ja.wikipedia.org/wiki/リロングウェ> ※マラウイ エヌクウェニ通信に書かれている見解は、著者個人のものです。